

カッセー農法(有機米作付)事例

新潟県北蒲原郡水原町内の某田圃において、カッセー農法による有機米栽培を試験的に実施した。某田圃は前年まで化学肥料や農薬を使用して栽培しており、有機栽培は全く初めての試みである。

実施期間	平成12年4月～平成12年9月
実施場所	新潟県北蒲原郡水原町
実施面積	991.7㎡(1反)

元肥散布

積込



<平成12年4月9日>
ストックヤードよりカッセーチップ約1tを積込みし、田圃まで搬入、積み降ろし

積降



カッセー鶏糞



<平成12年4月9日>
カッセーチップ約1t及びカッセー鶏糞8袋(120kg)を田圃全体に散布する

散布



耕起

耕起



<平成12年4月16日>
元肥散布より1週間後、トラクターにより田圃を耕起

耕起後



代 掻 き

カッセー液



<平成12年4月23日>
田圃に水を張る際、
カッセー液1ℓを注入する

カッセー液注入



代 掻 き



<平成12年4月23日>
カッセー液注入後、
トラクターにより代掻き

代 掻 き 後



田 植 え

田 植 え



<平成12年5月6日>
田植えの実施
苗は2本植えにした

田 植 え 後



追 肥

カッセー鶏糞

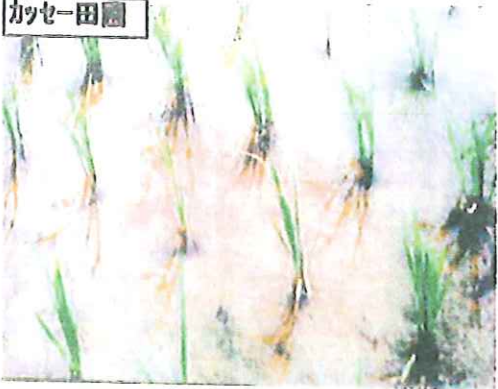


<平成12年6月3日>
カッセー鶏糞3袋(45kg)
を追肥
田圃全体に散布した

散 布



カッセー田圃



<平成12年6月3日>

田植後約1ヶ月経過したところで、隣接田圃と比較してみたところ、化学肥料、農薬を使用している隣接田圃の苗は分蘖の進みが速く、カッセー農法の田圃はあまり分蘖が進んでいない

近隣田圃



穂肥

<平成12年7月22日>

カッセー鶏糞2袋(30kg)を更に穂肥、田圃全体に散布した

稲刈り

田圃比較



隣接田圃

カッセー田圃

<平成12年9月13日>

稲刈り直前のカッセー農法の田圃と隣接田圃の稲の生育状態を比較してみると、カッセー農法の稲は穂着きが良く稲穂の粒も大きく黄熟しているが、隣接田圃の稲は穂着きが悪く粒も小さく黒ずんでいる

稲穂比較



カッセー田圃

隣接田圃

カッセー田圃



<平成12年9月13日>

前週は雨天続きであったが、カッセー農法の稲は根がしっかりと張り、茎も太いため倒伏していない。稲10株を平野農場に持ち込み、米の成分及び外観品質の測定を依頼

カッセー稲



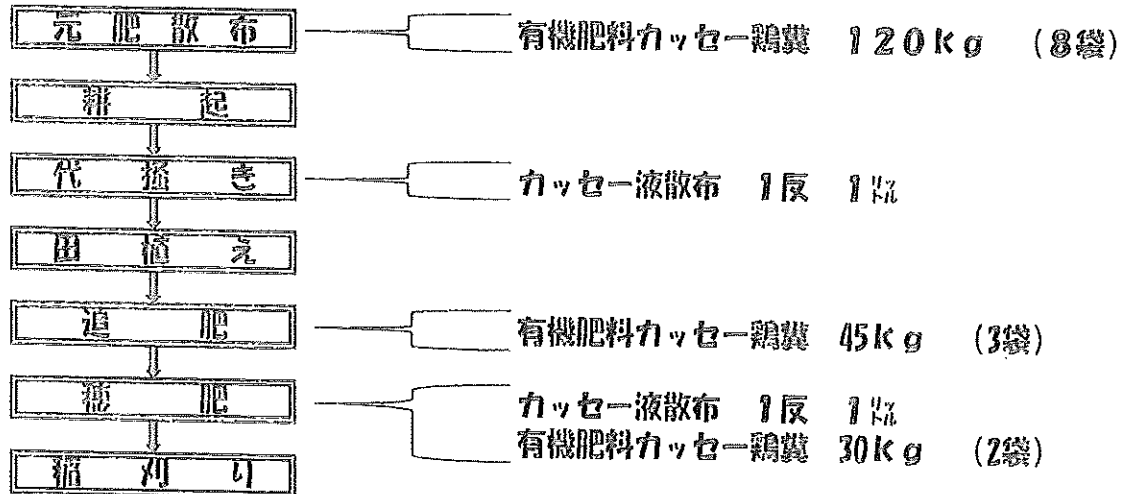
<平成12年9月16日>

稲刈りを実施、収穫量は9.5俵だった

食味診断を実施 (2000年度)

- ・下記の使用方法で有機栽培をし食味診断試験実施
- ・要改善となったアミロース含量を改善する為に使用方法を改善した。(次ページ使用方法参照)

～使用量と使用時期～



診 断 結 果						
測定月日		2000年9月16日		水田所在地	水原	
項目		白米(粉)	目標値	適	要改善	
米の成分	アミロース含量	19,0	18,5%以下		○	
	蛋白含量	6,0	6,8%以下	○		
	水分含量	13,5	13,5~14,0%	○		
	脂肪酸度	6,6	12,0mg以下	○		
食味値		77	75点以上	○		
ランク		A	A	○		
白度		25,0	20,0以上	○		
外観品質	整粒歩合	87,2	80,0%以上	○		
	未熟粒	1,2	10,0%以下	○		
	その他	被害米	0,7	5,0以下	○	
		死米粒	0,0	3,0以下	○	
		着色粒	0,0	0,1%以下	○	
		胴割粒	10,6			
干粒量		21,8	21,0mg以上	○		
外観格付け		1				

